

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	デザイン	科目：	テキスタイルデザイン	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	自作プリントなど				

年間指導目標：
必修授業に組み込まれているテキスタイルの時間内ではなかなかできない、テキスタイル技法を使って、作品を制作する。また、生活の中で使われているテキスタイルデザインの幅を実感し興味が持てるように、テキスタイル商品やテキスタイル作品を考える。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・ 2 年時に学習したテキスタイルの内容を理解し、作品制作に応用出来る。 ・ 様々なテキスタイル技法や様々な作品を新たに理解し、作品制作に生かすことが出来る。	・ 学習したテキスタイル技法を、事前準備や作品の仕上がりに活かし、オリジナリティある成果物に仕上げる事が出来る。	・ 自ら積極的に授業に参加し、興味関心を持って粘り強く最後まで取り組むことが出来る。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	・ 全体説明 ・ 型染 型堀の理解 中心送りのリピート で、1/4柄を考える	(知)	・ 型染めの基本を理解し、作品発想に生かすことが出来る。		○		○	○	12
			(思)	・ 繰り返してできる文様を、美しく組み合わせることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・ アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	・ 型染 オパール染め 抜染染め	(知)	・ 加工糊による糊置き技法を理解できる。 ・ 抜染技法の基本を理解し、アイデア展開に応用できる。		○		○	○	12
			(思)	・ 型染めに興味を持ち、型作りの意匠に生かすことが出来る。		○		○	○	
			(態)	・ アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	②シャギー織り 絨毯織の一種である シャギー織りで、ミニタペ ストリーを制作。 シャギー織りの技法を 理解する。 シャギーの技法に合う デザインを考える。	(知)	・シャギー織の特性を理解し、獣毛と化学繊維使用時の違いなど、材料による特性変化を理解している。		○		○	○	16
			(思)	・起毛での違いなどを理解し、制作物の仕上げを考えてデザインが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	シャギー織り 絨毯織の一種である シャギー織りで、ミニタペ ストリーを制作。 シャギー織りの技法を 理解する。 シャギーの技法に合う デザインを考える。	(知)	・使用素材の特性を考えて、造形に反映させることが出来る。		○		○	○	16
			(思)	・起毛素材を活かしたデザイン案と、その特性を生かした作品を制作することが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	作品の発表、鑑賞、講評	(知)	・作品を発表し、生徒同士の工夫した点を理解することが出来る。		○		○	○	4
			(思)	・作品発表に向けてポイントをまとめ、成果物の魅力を伝えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。 ・他の生徒作品をよく観て理解し、様々な面で今後に生かすことが出来る。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	デザイン	科目：	映像デザイン	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	自作プリント				

年間指導目標：

さまざまな映像作品に触れ、カメラアングルや構図など理解する。映像の基本的な知識を踏まえ、Adobe premiere proを使用しながら授業を進める。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・映像制作の流れを理解して、制作に生かすことができる。	・基礎的な映像技術を組み合わせて応用できる。	・計画的に制作に取り組み、完成に向けて最後まで取り組むことができる。
	・モデリングクレイで動画セットを造ることができる。	・クレイで動きを考え、動画効果を自分で工夫できる。	・基礎知識と技術を駆使して、応用した方法を考え出すことができる。
	・動画編集の基礎を理解している。	・動画編集を映像の目的に合わせてできる。	・作品発表で、制作意図やポイントを伝えることができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	・概要説明、参考作品鑑賞 ・メタモルフォーゼ（形態変化動画） アイデア（企画、コンテ） 制作、撮影	(知)	・基本的な映像制作プロセスを理解し、アイデア展開を組み立てることができる。		○		○	○	12
			(思)	・形態の変化を想定して、プロセスを絵コンテに置き換えることができる。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げることができる。		○		○	○	
1 学期	期末 考査	・メタモルフォーゼ（形態変化動画） 撮影（造形、動画撮影） 編集（Adobe premiere pro）	(知)	・撮影内容を活かして、Adobe Premiere proの基礎操作を理解して制作ができる。		○		○	○	12
			(思)	・カメラアングル、構図で印象が変化する事を理解し、応用して映像制作ができる。		○		○	○	
			(態)	・編集計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げるができる。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	・モデリングクレイ造形（人形、セット制作） 撮影	（知）	・基本的な映像制作プロセスを理解し、アイデア展開を組み立てることが出来る。		○		○	○	16
			（思）	・形態の変化を想定して、プロセスを絵コンテに置き換えることが出来る。		○		○	○	
			（態）	・アイデア展開計画を根気よく取り組んで、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・モデリングクレイ造形（人形、セット制作） 撮影	（知）	・撮影内容を活かして、Adobe Premiere proの基礎操作を理解して制作ができる。		○		○	○	16
			（思）	・カメラアングル、構図で印象が変化する事を理解し、応用して映像制作ができる。		○		○	○	
			（態）	・編集計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・モデリングクレイ編集 ・鑑賞、振り返り	（知）	・学習内容を理解し、他の生徒の優れた点を挙げることが出来る。		○		○	○	4
			（思）	・自分の映像制作を通して、他の生徒作品の作品制作プロセスを考えることが出来る。		○		○	○	
			（態）	・計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。 ・他の生徒作品をよく観て理解し、自分の作品に生かすことが出来る。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	デザイン	科目：	自由選択 立体プロダクト	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	無し	副教材	自作プリント				

年間指導目標：
具体的な指導目標 さまざまな素材に触れ、それぞれに合った加工方法を習得する。その中で、日本の伝統工芸を理解しながら、機能と技術を習得する。また道具の使い方も学び、安全かつ正しい使い方を習得しながら授業を進める。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・機能性について理解している。 ・材料の特徴を理解している。 ・材料にあった加工法を理解している。	・材料特性を理解して形を考えている。 ・使い勝手、使用者を考えた造形をしている。 ・形が機能と美しさを両立している。	・自ら積極的に授業に参加し、興味関心を持って粘り強く最後まで取り組むことが出来る。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	・オリエンテーション 日本の機能造形。伝統工芸とプロダクトデザインの相違点。 ・寄木細工：ふた付きの箱の制作 適した木材同士の圧着	(知)	・伝統工芸とプロダクトデザインの相違点を理解して説明できる。 ・機能を考えて制作物のアイデアを提示できる。		○		○	○	12
			(思)	・可動部や機能を考えたデザインを考えている。 ・圧着のための固定法を、造形に生かして使用できる。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	・寄木細工：ふた付きの箱の制作 木材の圧着調整 鉋による「づく」作成と貼付け 組木による木箱の組み立て	(知)	・寄木細工における使用木材を的確に選択できる。 ・鉋掛け、厚さ揃え等の技法を理解して造形できる。		○		○	○	12
			(思)	・木材の特性を考えて、自分の意匠を反映した加工ができる。 ・道具の用途と性質を理解して、適切に使用できる。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	・真鍮の加工：スプーン 真鍮の特性理解 材料特性と使い勝手を考 えたデザイン案 金属切削加工技術の習得	(知)	・真鍮の素材特性を理解している。 ・加工技術と手順を理解し、準備できる。		○		○	○	16
			(思)	・真鍮の素材特性を理解し、機能性を考えた形態 を考えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期 日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・真鍮の加工：スプーン 金属切削加工技術の習得 鍛金技術の習得	(知)	・真鍮という金属素材の特性を考えて、造形に反 映させることが出来る。		○		○	○	16
			(思)	・真鍮の素材特性を理解し、機能性を考えた形態 を考えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・アイデア展開計画を根気よく取り組み、提出期 日を守って仕上げる事が出来る。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	作品の発表、鑑賞、講評	(知)	・作品を発表し、生徒同士の工夫した点を理解す ることが出来る。		○		○	○	4
			(思)	・作品発表に向けてポイントをまとめ、成果物の 魅力を伝えることが出来る。		○		○	○	
			(態)	・計画を立てて根気よく取り組み、提出期日を 守って仕上げる事が出来る。 ・他の生徒作品をよく観て理解し、様々な面で今 後に生かすことが出来る。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	3年自由選択	科目：	デッサン構成	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	なし				

年間指導目標：
造形表現活動の基礎であるデッサン及び構成の知識と技術を学習し、進路実現に向けた能力を身につけ、実際に活用する能力を修得する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	様々な基礎図法に基づいた描画法と、表現のための観察ポイントを理解する。	緻密で多角的な観察に基づき、課題に対して的確な表現方法を判断する力をつける。	入学時から会得した学習内容と、様々なアドバイスを活かし、自らの確かつ効果的な方法を工夫して見つけ出している。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配 当 時 数
1 学 期	中 間 考 査	■クロッキーによる描画力向上。 ・ 静物、組み合わせモチーフ、人物など ・ 10分、5分、3分、1分と、徐々に時間短縮して描画する。 ・ 短時間で的確に構図を捉えて描画する技術の習得。	(知)	・ 以前学習した図法を理解して活かせる。 ・ 画面に対して構図や比例を分ける理論を理解している。 ・ 学習内容が作品に反映されている。		○		○	○	12
			(思)	・ 短時間で対象を的確に描画することができる。 ・ 短時間で的確な構図を捉えることができる。 ・ 輪郭線などの簡素な方法で、質感を描き分けることができる。		○		○	○	
			(態)	・ 提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・ 的確に道具を使用して仕上げている。 ・ 取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	
1 学 期	期 末 考 査	■ 静物デッサン ・ 異質な質感同士を組み合わせたモチーフ。 ■ 平面構成 ・ 動的な構成を持つモチーフ構成。	(知)	・ 画面と構図の関係を理解している。 ・ モチーフの配置と比例を理解している。 ・ 個々の質感を理解し、作品に反映している。		○		○	○	12
			(思)	・ モチーフの意図を理解し、作品に活かしている。 ・ 画面構成の基礎が、課題テーマに活かされている。		○		○	○	
			(態)	・ 提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・ 的確に道具を使用して仕上げている。 ・ 取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	■想定デッサン ・テーマに沿った構成と想定描画。 ・正確な材質描写と、材質変化想定描写。 ■平面構成 ・テーマに沿った構成と配色。 ・配色構成に変化を加えた構成と描画。	(知)	・想定で描く時の観点を理解している。 ・材質変容の為の応用描写を理解している。 ・配色理論を応用して使用できる。		○		○	○	16
			(思)	・想定でモチーフを描く為の練習が出来る。 ・質感を自在に変化させて表現する事ができる。 ・配色を自在に変えつつ、モチーフを的確に表現できる。		○		○	○	
			(態)	・提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・的確に道具を使用して仕上げている。 ・取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	■デッサン応用 ・複雑なモチーフ構成と描画。 ・より複雑な想定描画。 ■平面構成 ・複雑なモチーフ構成と配色。 ・より高度な配色法と応用。	(知)	・複雑な課題観点を理解できる。 ・材質変容の描写を応用できる。 ・配色理論を自在に応用して使用できる。		○		○	○	16
			(思)	・想定描写と構成が出来る。 ・質感変化と、的確な描画のバランスを考えられる。 ・配色理論を活かし、配色構成を自在に表現でき		○		○	○	
			(態)	・提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・的確に道具を使用して仕上げている。 ・取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	■作品鑑賞と総括 ・鑑賞と講評。 ・発想と技法の確認と総括。	(知)	・他の生徒の作品から、造形理論に基づいて理解できる。 ・自己作品のポイントを論理的に理解できる。 ・作品鑑賞を通じて、自己の作品に活かす事がで		○		○	○	4
			(思)	・自己作品のポイントを論理的に説明、発表できる。 ・互いに、造形理論に基づいて理解、説明できる。		○		○	○	
			(態)	・提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・的確に道具を使用して仕上げている。 ・取組が作品の完成度に反映している。		○		○	○	
合計										60

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・クラフト	科目：	応用CAD演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	自作プリント	副教材					

年間指導目標：
（１）３次元C A Dに関する基礎・基本を身に付ける。
（２）３次元C A Dの理論や操作等の学力を身に付ける。
（３）２次元C A Dは製図をするのに対し３次元C A Dは概念設計を行う。お互いの長所・短所を理解する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	３次元CADの学習に必要な基本的な知識・技能を身につけている。	３次元CADの問題処理能力について、C A D製図の状況・結果、原理・法則などから課題解決に向けて考え、判断・工夫し解決している。	３次元CADの内容に関連し、積極的に取り組み、学習を通じて探究する能力・態度を身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配 当 時 数
1 学 期		1. 3 D C A Dの基礎 ①3 D C A Dの概要について ②3 D C A Dの基礎について ③3 D C A Dの機能について ④3 D C A Dシステムについて 2. 3 D C A Dの基本操作 ①3 D C A Dの基本操作について ②立体図形の作成機能について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	28
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
			(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	

2 学 期		3. 3 D C A D ①機械部品の作成 ②C A D・C A Mについて ③概念設計について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	32
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
			(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
3 学 期		4. 3 D C A D製図の作図(2) ①C A D・C A Mについて	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	18
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・クラフト	科目：	自動車一般	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	自作プリント	副教材					

年間指導目標：
1. 自動車に関する各装置の構造と機能について基礎・基本を理解する。
2. 自動車に関わる環境が社会的な問題としてとらえ、大気汚染・振動・騒音など環境に与える各種の影響や交通災害について理解し、省エネルギーなどの問題に積極的に取り組む能力と態度が育成できること。
3. 自動車の各装置の基本的なしくみと働きが理解できるとともに、各部品に働く力について理解でき、簡単な計算ができること。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	自動車及び自動車に関する各部分の基本的な構造・機能に関する知識等を習得し、実際に活用できる能力と態度を身につけている。	自動車及び自動車に関する各部分の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身につけている。	自動車及び自動車に関する各部分の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、意欲的に探究するとともに、主体的に学習に取り組む態度が身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期		1. 自動車の車両区分について ①ナンバープレートについて ②車のボディサイズについて ③車の形状について ④車の排気量について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	28
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
1 学期	期 末 考 査	③タイヤのサイズについて ④タイヤのサイズの計算について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。	○	○	○	○	○	
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。	○	○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。	○	○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	3. エンジン関係について ①エンジンの種類について ②エンジンの構造について 4. 変速機について ①変速機の種類について ②ギヤの計算について ③ギヤに関する速度計算について	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。	○	○	○	○	○	32
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。	○	○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。	○	○	○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査		(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。	○	○	○	○	○	
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。	○	○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。	○	○	○	○	○	
3 学 期		5. ホイルアライメントについて ①キャンパー角度について ②カスター角度について ③トーイン、トーアウトについて	(知)	基本的な概念や原理・法則が理解できたか。		○	○	○	○	18
			(思)	学習を通じて探求する能力・態度が身に付いたか。		○	○	○	○	
			(態)	積極的に研究に取り組んだか。		○	○	○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・システム情報	科目：	システム数理	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書			副教材	自校作成資料等			

年間指導目標：
電気、電子、情報工学の基礎である電気回路や電磁気学における事象の数理処理に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	コンピュータプログラミング技術、情報処理技術の基礎的な知識・技能について各単元で学習した内容がどれだけ理解されたかを、小テスト、考査、模擬テストで測定し、評価する。	情報スキルに関する課題に対し学習内容を考え、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断・対応できる。	情報スキルに関する諸問題の解決を目指して広い視野から自ら考え、学習した知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	1 コンピュータによる問題処理手順 問題処理とプログラム開発手順	(知)	情報スキルの基礎について理解している。	○	○	○	○	○	12
			(思)	情報スキルの基礎について理解し、課題解決に応用できる。	○	○	○	○	○	
			(態)	情報スキルの基礎理論について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	○	○	
1 学期	期 末 考 査	文書化、流れ図の書き方 プログラム言語、目的及び翻訳プログラム 2 プログラミング技術 順次プログラム、・選択型プログラム、・分岐型のプログラム	(知)	アルゴリズムとプログラミングなどについて理解し、これらの基礎知識を身につけている。	○	○	○	○	○	12
			(思)	アルゴリズムとプログラミングなどについて理解し、これらの課題解決に応用できる。	○	○	○	○	○	
			(態)	アルゴリズムとプログラミングなどについて関心があり、意欲的に学習に取り組んでいる。	○	○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	2 プログラミング技術 1次元配列、2次元配列・ 文字の扱い・各種ソート	(知)	コンピュータの構成要素・ソフトウェア（OSの 機能）について理解し、基礎知識を身につけている。	○	○	○	○	○	16
		3 構造プログラム プログラムの標準化・プログラ ムの分割・関数	(思)	コンピュータの構成要素・ソフトウェア（OSの 機能）について思考・判断ができ、表現することが できる。	○	○	○	○	○	
			(態)	コンピュータの構成要素・ソフトウェア（OSの 機能）について関心を持ち、意欲的に取り組んで いる。	○	○	○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	4 応用プログラム データ構成（構造体、ポイン タ）・ファイル処理	(知)	ソフトウェア（システム管理）・ハードウェアに ついて理解し、基礎知識を身につけている。 ヒューマンインターフェースの基礎知識を身につ けている。	○	○	○	○	○	16
			(思)	ソフトウェア（システム管理）・ハードウェアについ てについて思考・判断ができ、表現することができる。 ヒューマンインターフェースの設計・思想について思考 判断ができ、表現することが出来る。	○	○	○	○	○	
			(態)	ソフトウェア（システム管理）・ハードウェア・ ヒューマンインターフェースについて関心を持 ち、意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	5 コンピュータプログラ ミングにおけるストラテ ジー及びマネジメント	(知)	各種マルチメディアの概要を理解し、基礎知識を 身につけている。システム・ソフトウェアマネジ メント系の基礎について理解し、基礎知識を身に 付けている。	○	○		○	○	22
			(思)	各種マルチメディア、システム・ソフトウェアマ ネジメント系内容について思考・判断が出来、表 現することが出来る。	○	○		○	○	
			(態)	各種マルチメディアの概要を理解し、基礎知識を 身につけている。システム・ソフトウェアマネジ メント系の内容について興味を持ち、意欲的に取 組んでいる。	○	○		○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・ビジネス情報	科目：	ビジネス法規	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	ビジネス法規（実教出版）	副教材	ビジネス法規問題集（実教出版）				

年間指導目標：
・ビジネスに必要な法に関する基本的知識を習得させる。
・経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法律的に考え、判断する能力と態度を育成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・授業内の内容について理解できたか定期考査を実施して評価する。 ・授業内で小テストを実施し、単元ごとの理解度を測る。	・授業の中で課題を指示し、調べ学習の成果を評価する。 ・調べた内容が薄いものかより鮮明に研究されたものかなどを評価する。	・授業外で課題・宿題を出し、提出状況を評価する。 提出物の内容が自身で考察しながら書かれているかどうかを評価する。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		
										配当 時数
観点	評価規準				a	b	c	d	e	
(知)	・ 実社会において、どんな権利と義務があるのかを理解しているか。 ・ 知的財産権の種類とその意味について理解している。				○		○			12
(思)	・ 権利と義務について、事例を参照しながら自身で納得できているか。 ・ 物権について理解し実社会での取引にも関連していることを考察できているか。					○				
(態)	・ 義務や権利の種類や意味を理解するために積極的に説明を聞き、内容をまとめているか。 ・ 知的財産権の意味を理解して、板書などを行っているか。							○	○	
(知)	・ 契約について、法的な効力と意味を理解しているか。 ・ 物の賃借について、法律を理解し不法行為や時効などの意味を理解しているか。				○		○			12
(思)	・ 事例をもとに、実社会ではどのような契約があるかを自身で考えているか。 ・ 自身でどんな場面で契約が発生するかを想像し、その意味を考えているか。					○				
(態)	・ 板書をしっかり取り、理解しようと努力しているか。 ・ グループ学習で積極的に発言しようとしているか。							○	○	

[illegible]